

見性院住職からの一言（その九 人事と出家）

この住職歴 10 年の中で事業経営と同等以上に難関だったことの一つに人事採用があります。つまり職員の採用と弟子の採用・育成です。これはごくあたり前のことではあるのですがこうした苦労を常時しているために、経営者の中にはとても魅力的なオーラのある人たちがおられるのだと思います。人間やはり昔の人は「他人の釜の飯を食え」と口酸っぱくいつてきたことは真実です。年季奉公、丁稚奉公、下積みというのは人間形成上、最も価値ある体験かと思えます。人生の前半は下積み修行と猛勉強、後半は人材育成と洞察力の錬磨が重要かと最近とみに思うこの頃です。この度も用意周到に準備をして、半年間を掛けて採用した人が二週間で辞めていただくことになりました。自分史上最悪の結果でした。（事業運営は今のところおかげさまで順調に推移しておりますが。）そこで得た私の教訓は新規事業に打って出る場合、最後の最後まで悩んだ場合はやってみる。そしてこと人事の採用は悩み抜いた末は今後は不採用に踏み切ることを原則といたしました。

人事採用というものはそもそもそんなもので失敗はつきもの。一カ月で本性が出る人、半年、一年、二年で化けの皮が剥がれる人と色々です。ですからなかなか防ぎようがないことなのですが、わが寺の方針は今後はこのようなかたちをとっていくのがよいのかなと思います。これまで宗教的救済を第一主義としてきたために無理を承知で多くの方を採用させていただきました。随分と不愉快の連続、罵詈雑言を浴びせられてきましたが、これからはややハードルを上げて優秀な人の獲得に舵を切っていく所存です。まだまだこれから先も失敗を繰り返しながら人生を歩いていくことになるかと思いますが、今回の教訓を次に生かすために「心得」を新たに作成しました。ご笑覧いただけますと幸いです。

※追伸・・・宗門の最重要課題の一つに僧堂改革があります。これは今やらねばならないと私も同感です。もう一つ懸念していることに尼僧の教育と育成があります。これはかなり難しいようで臨済宗は尼僧道場がすでに消滅したそうです。

私は偶々（たまたま）外国人、日本人問わずこれまで多くの優秀な尼僧様と交流を持つことに恵まれてきました。その中のお一人が私に最近こんなことをおっしゃられました。「方丈さん、寺族（住職の妻、娘）の出家は非常に難しい、問題ですよ。私たちのように在家出身で仏道修行が目的で結婚をする気な

どさらさらない人と生活目的だけの寺族では道場でも本気度がまるで違って
いたのでかみ合わなかった。」ということでした。私はこのことは言い得で妙
であると思いました。まして僧堂としての体を成していない尼僧道場から本物
が打ち出されるとは思えません。これからは僧堂も宗門大学も一般寺院も離合
集散の中で吸収合併を進め、再編しか残された道はないと思います。

——見性院の一員として仏道修行をする人、法務（業務）関係に従事する人の心得十カ条——

- 一、人の悪を言わず正しいことを求める人。
- 一、利益を追わず夢を追う人。
- 一、損得ではなく善悪で判断する人。
- 一、公序良俗、滅私奉公の人。
- 一、饒舌（おしゃべり）ではない人。
- 一、謙虚にして驕らない人。
- 一、人柄が温厚で言葉遣いの綺麗な品のある人。
- 一、布施行、菩薩行ができる人。
- 一、清潔感があって嫌みのない人。
- 一、親切、丁寧、几帳面な人。